

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	幼稚園施設保全整備事業					②事業番号	7109
③事業類型	5. 普通建設事業			④開始年度	昭和 36 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	法令	○ 条例	○ 規則	要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称 泉南市立幼稚園条例他
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	4	目	3	細目 1
⑨担当部名	教育部			⑩担当課名	教育総務課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 幼稚園施設	① 幼稚園施設数	園
② 園児	② 園児数(5月1日現在)	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
幼稚園施設の機能確保、保持のために必要な保全及び保育教育環境改善に向けた工事などを行う。 また、旧幼稚園施設の維持・保全を行う。	① 修繕件数	件
	② 工事件数	件
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
幼稚園施設を保全、改善することで、幼稚園運営の支障解消及び良好な幼児教育環境の提供を図る。	① 保全整備執行率	%
	計算式 (修繕費決算額÷修繕費予算額)×100	
	② 工事実施率	%
	計算式 (工事完了件数÷工事予定件数)×100	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
	政策(章) 1	すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節) 3	子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします
	施策中 1	幼児教育の充実
	施策小 3	保育教育環境の整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	幼稚園施設数	園	2	2	2	2	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②	園児数(5月1日現在)	人	393	367	348	338	—	
活動指標①	修繕件数	件	19	13	11	14	—	平成29年度は門扉 遠隔操作修繕、大型 備品を購入したた め。
活動指標②	工事件数	件	2	2	2	2	—	
活動指標③								
成果指標①	保全整備執行率	%	93.83%	97.26%	97.49%	96.00%	—	
成果指標②	工事実施率	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—	事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明 平成29年度は門扉遠 隔操作修繕、大型備 品を購入したため。 令和元年度の総事業 費の増は、備品購入費 の増額。 その他特定財源につ いては、水なす基金か らの繰入金。
事業費	投入人員	人	0.29	0.29	0.34	0.34	—	
	正職員	人	0.00	0.05	0.10	0.10	—	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	2,329	2,515	2,963	2,963	—	
	直接事業費	千円	7,061	1,067	1,960	1,922	—	
	総事業費	千円	9,390	3,582	4,923	4,885	—	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	—	
	府支出金	千円	0	0	0	0	—	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	—	
	その他特定財源	千円	0	0	200	100	—	
	一般財源	千円	9,390	3,582	4,723	4,785	—	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	幼稚園の設置による。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	平成23年度からの2園化に伴い、負担は軽減されている。 今後は、経過年数などにより補修箇所が増加していくものと考えられるため、随時発生する保全箇所の解消に努める。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。		ア. する アイ. ある程度 ウ. しない	保育教育環境の整備に繋がる。					
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)		ア. はい アイ. ある程度 ウ. いいえ	公立幼稚園の設置者として、市が実施する必要がある。					
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	良好な保育教育環境を提供することは、公立幼稚園を設置している限り必要であり、平成23年度から2園化し事業規模も妥当である。					
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。		ア. 影響がある アイ. ある程度 ウ. ない	幼稚園運営に支障が生じ、安全安心で良好な保育教育環境を提供することができない。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
⑤期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	幼稚園運営の支障解消になっている。					
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		アイ. ある イ. ない	施設については、経過年数などにより補修箇所は増加していくものと思われる。					
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	幼稚園施設の維持管理は、設置者である教育委員会の責務であるので不可能である。					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		アイ. ある イ. ない	平成23年度から2園化しているため、一定の効果は得られている。					
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)		アイ. ある イ. ない	施設管理にかかる費用であり、受益者負担は困難である。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	—	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア

ア. 現状のまま継続

イ. 見直しのうえで継続

ウ. 終了
↓
(年まで)

エ. 休止
↓
(年から)

オ. 廃止
↓
(年から)

＜今後の展開方針＞

a. 重点化する(集中的なコスト投入)
b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)
c. 効率化する(コストを下げる)
d. 簡素化する(規模を縮小する)
e. 統合する(他の事務事業と統合する)

①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—